

令和七年 七月の俳句

与謝 蕪村

菜の花や

月は東に

日は西に

高野 素十

ひつぱれる

糸まつすぐや

甲虫

松尾 芭蕉

荒海や

佐渡によこたふ

天河

菜の花畑が見わたすかぎりひろがつ
ている。いままさに春の一日がくれよう
としている。淡い月が東の空にのぼつて
いる。西を見ると、夕陽がしずもうと
している。

(季語 菜の花 春)

逃がさないようにかぶと虫に糸をつ
けて遊んでいる。かぶと虫は力持ちだ。
その力の強さが、糸がまつすぐに張った
という描写でよくわかる。

(季語 かぶと虫 夏)

秋の夜、目のまえは日本海のあら
い海だ。海のおこうのほうを見ると、白く
美しい天の川(銀河)が佐渡のほうまで
のびて、まるで橋のように横たわってい
る。すごく雄大な景色だ。

(季語 天河 秋)

「子ども版 声に出して読みたい日本語」草思社
「入門俳句事典」国土社